

扶助者聖マリアのノヴェナ

7日目（5月21日 金曜日）

新しい視野を持って、イエスの後に従う。

⁵²盲人は、すぐ見えるようになり、なお道を進まれるイエスに従った。

<分かち合い>

碑文谷：コロナ渦の今だからこそ、今こそ、私達も、今までの価値観から、キリストに従う生き方を選びましょう。（山本）

土浦： コロナと同時に私が担当しているのが日力連(日本カトリック女性団体連盟)の茨城カトリック女性の会です。担当顧問司教がマリオ山野内倫昭司教様です。右も左もわからない中で動き始めたものの、年間計画されていた司教講話や数々の催しがコロナ禍のために、すべて中止となりました。5月8日に予定されていた日力連総会も中止となり、模索しながら再開を待っている状況です。キリストの代理者である司教様の講話が待ち遠しいです。併せてミサにも与りたい。

調布： 先日、入管法改定が国会で審議入りいたしました。それに伴いこの問題は、カトリック新聞でも何度も取り上げられ、さらに署名活動やセミナーを通して、難民や非正規滞在の方々の人権を守る声が大きくなってきています。調布教会の福祉部会でもこの実態を知るべくオンラインセミナーで勉強会を開きました。改めて難民の方々の過酷な状況や日本の人権に対する意識がまだまだ低いことを知ることができました。かつて、私たち ADMA は、非正規滞在の家族に同伴した体験があります。もし、この体験がなかったら、このように入管法改定が審議入りしても身近な問題としてとらえられたか、私自身もはなはだ疑問です。国を離れざるを得ない厳しい状況にある難民の方々や、移住者に対して神様は限りない慈しみを注がれることを心に刻み、イエスの姿を見失わないよう後に従っていきたいと思います。（藤永）

鷲沼： 鷲沼教会は、東京目黒区碑文谷にあったサレジオ学院が川崎市鷲沼に移転し、校舎でごミサをあげたのが始まりです。後にサレジオ学院幼稚園が隣接され、ごミサは当園地下ホールに移りました。やがて今の教会が学院敷地内に完成します。2001~2005年、アンヘル山野内公司神父様が主任司祭になりました。

今年3月20日、当教会にて西村英樹神父様の叙階式が行われました。

それは、コロナウィルスで閉ざされた環境下の私達にとって、明日に繋がる喜びの日となりました。

西村神父様は初ミサの中で、霊的指導者であるアンヘル神父様のお話をされました。

路上生活者の方と一緒に風呂に入り、背中を洗ってあげたこと、聖体拝領の時の神父様の喜びに満ちた様子を毎回目の当たりにされていたことをお聞きし、心暖かく、平和な気持ちになりました。

来年、サレジオ学院幼稚園は閉園の予定です。教会にとって幼稚園の影響は大きく、また保護者子ども達にとっても大きい存在でした。園児対象の子羊会、小学生対象の教会学校、の先細りが心配されています。

また2023年、教会は先に横浜市に移転しているサレジオ学院の敷地内に移転する予定です。

長年、親しまれた教会が変わる不安を皆それぞれに抱えています。家から遠い、交通が不慣れ、所属教会を変えたい。等々様々な声を聞きます。自分にとってどのような行動が望ましいのか、考えるきっかけにしなくては前に進みません。勇気を出してもう一歩歩き出す時です。（遠藤）

浜松：(□□ピアナ神父様)

扶助者聖母の on line ノヴェナのために一言申し上げるよう頼まれていましたので、聖母マリアの信仰の道のりについて原稿を書きましたが、証とつながる体験について話した方がいいということで、原稿を書き直しました。

浜松に異動して一年たちましたが、発見の多い一年だったと言えます。ほとんど毎日、何か新しいものを発見し、学び、碑文谷教会と浜松教会がだいぶ違うなと思いました。おまけに、コロナウィルスが教会生活にかなり影響していますので、いまだに浜松教会の本来の姿が正確に見えていませんし、マスクのために、多くの信者の顔を見たことがありません。年のせいでもあります。信者さんの顔と名前を合わせるのが困難になっています。

外国籍の信者が大半ですので、言葉の壁が大きな問題です。新しい言語を簡単に覚えられるかと思っていましたが、ふたを開けてみると、es mas dificil que yo pensaba. やはり、言葉と音楽は子供の時でなければ、身に着けることが難しいですね。今言えることは、簡単な一年ではありませんでした。今でも、どうしたらいいかわからないことがよくあります。

ところが、おかげさまで、いいことにも出会うことが多くありました。まず第一、二人の素晴らしい司祭と一緒に生活するようになったこと。司祭団は3人ですが、年齢、国籍、言葉、受けた養成、経験、習慣、背丈、体重、感じ方その他全く違う3人ですが、毎日祈りと食事を一緒にして、三位一体ほどではありませんが、一致協力して、頑張っています。

信者の中で、教会委員長の富田さんをはじめ、帰属意識が深く、よく協力してくれる方が多いです。そして、一番いいことは、以前よりも、祈りの時間が増えたこと。毎日の黙想の時間、ロザリオ、聖体礼拝も規則正しく行われています。

敷地内に聖母マリアのご像がいくつもあって、どこへ行っても、聖母に出会い、その信心を深めることつながります。ADMAのメンバーも多く、今月の24日に約束を更新することになっています。

扶助者聖母が、浜松教会の信者、教会に來れない、來ない人を含めて、特に子供、お年寄り、病人を見守り、助けてくださるよう祈っています。

ルシアナ・ムラカミ

教会の行事に協力することが好きです。兄弟姉妹を通して神の愛を感じます。日本語がわからないけれど、愛の言語でコミュニケーションをとっています。

この数年、さまざまな試練がありました。特に昨年から今日まで、家族にも様々なことがおきましたが、神を信頼する時でもありました。コロナのために多くの人たちは家に留まらなければなりません。工場のラインは、3ヶ月間止まりました。私は幸いにも、失業しませんでした。たくさんの方が仕事を失ったのを見ました。恥ずかしい状況に置かれていました。私はそのような人たちに、神様を信じなさいと言いました。この試練は、私たちの信仰が強められるためです。聖体訪問をする度に、私は元気付けられました。私の甥が事故に遭った時、落ち着かない気持ちになりました。しかし、私の心の中では、彼は治るという確信がありました。神様の恵みによって、多くの方々が祈ってくださいました。そして両親の忍耐強さ、彼らが語る証しは、聖母マリア様が母として助け、取りなしてくださっていると感じさせてくれていました。私の息子の奥さんは、妊娠した時あまり具合がよくありませんでした。彼女はマリア様を信じていません。でも、私はマリア様に彼女のための取り次ぎを願っていました。

神様はいつも私たちと共にいることを、私は知っています。私たちも生活の中で重荷となっているマントを脱ぎ捨てなければならないことを学びました。特にマントの一つは、理解されないこと。二つ目は、ただ欠点だけを見ているために、ある問題に直面してしまっていること。そして、ゆるしの足りなさがあります。見返りなしで隣人を助けること、他の人の前で自分の生き方に気をつけることが求められます。神から遠ざ

ける、すべてのものを手放さなければなりません。私たちは、誰であろうと、神様の前では平等です。

<扶助者聖母マリアのご像の紹介>



浜松（旅行で買い求めたマリア）

トリノのマリア大聖堂での感激のADMA入会式を終えた後、ローマのドン・ボスコ社で浜松の扶助者マリア像と出会いました。落ち着いた色彩が施された40センチ程の像です。

毎月24日の昼と夜のミサがある時には祭壇に上ります。また、ADMAの集いがある時には中心に置かれます。帰宅前には2、3人のADMA仲間で昼の教会の祈りも捧げてきました。コロナ禍の今、養成や集いに使われる部屋のガラス棚の中におかれています。

浜松には各共同体のマリア様が立ち並んでいます。全ての人のお母さまを実感しています。そして共同で祝う扶助者マリアが私たちを結んでいます。

中村恵美子

<最後の祈願（ドン・ボスコが作成した扶助者聖マリアへの祈り）>

「おお、マリアよ、力あるおとめ、
輝かしい教会の母、
素晴らしいキリスト者のたすけ、
戦いにあって配置された軍勢のような力を持ち、
世界のあらゆる異端をうちこわし、
不安や苦難、
困難にあってから私たちを守るマリアよ、
私たちが死を迎える時、
魂を受け取り、
天国へと導いてください。
アーメン」

<祝福>

チマッティ神父様のアベマリア

